

平成31年度実施 協働事業

協働事業審査会
公開プレゼンテーション

- ◆会場 ひらつか市民活動センター
- ◆開催日 平成30年10月6日（土）

目次

- 公開プレゼンテーション スケジュール・・・・・・・・・・・・ P1
- 市民提案型協働事業
 - ①「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト（新規）・・・・・・・・・・・・ P2
 - ②図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業（新規）・・・・・・・・・・・・ P8
- 行政提案型協働事業
 - ③ひらつか市民活動センター協働運営事業（継続）・・・・・・・・ P13
 - ④生物多様性保全推進事業（新規）・・・・・・・・・・・・ P23

平成31年度実施協働事業 公開プレゼンテーションスケジュール

●開催日：平成30年10月6日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

| 時間 | 内容 |
|----------------|---|
| 14:00 (会議室) | 開会 ・協働事業審査会委員長あいさつ ・協働事業審査会委員紹介 ・事務局説明（スケジュールと発表の方法など） |
| 14:10 | 市民提案型協働事業プレゼンテーション ※提案団体プレゼン（5分）、質疑応答 （新規提案） ①「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト ②図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業 行政提案型協働事業プレゼンテーション ※担当課説明（3分）、提案団体プレゼン（5分）、質疑応答 （継続提案） ③ひらつか市民活動センター協働運営事業 （新規提案） ④生物多様性保全推進事業 |
| 15:25 | 事務連絡 |
| 15:30 | 閉会予定 |

(宛先)

平塚市長

| | |
|-------|--|
| 団 体 名 | 特定非営利活動法人 MAMA-PLUG |
| 代 表 者 | 富川 万美 |
| 事業担当課 | 防災危機管理部 災害対策課 |
| 提 案 型 | <input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門) |
| 新規・継続 | <input checked="" type="checkbox"/> 新規 (1 年分) <input type="checkbox"/> 継続 (平成 年度～) |

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

| | | | | | |
|---|---|-------------|---|------------------|---|
| ①事業名 | 「アクティブ防災」で作る、 手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト | | | | |
| ②事業の目的・ 必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。 | いざというときに防災弱者になり得る妊婦、乳幼児連れ、子どもを対象に、ママプラグが培って来た「アクティブ防災」でのノウハウ (過去の災害の体験談を自分ごととして捉えてもらえるような内容の、オリジナルのグループワークや資料など) を活かし、生きのびる力とスムーズにコミュニケーションを図る力を身につけ、「妊婦や乳幼児連れの母親などを中心に、災害対策を講じづらい層の災害意識を向上し、より災害に強い平塚市」を目指す。 また、身につけた防災力を継続させ、市内の団体や教職員につないでいけるような事業とすることで、持続可能な防災事業とする。 | | | | |
| ③協働の必要性・ メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。 | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="456 1182 512 1615">必 要 性</td> <td data-bbox="512 1182 1453 1615">災害が起き、平塚市が被災地となってしまった場合、在宅避難または避難所のスムーズな運営が、復興スピードの鍵となる。 対象である、妊婦、乳幼児連れ、子どもは、被災時に地元に住居する可能性が最も高く、「地域住民」として避難所の実態や自助・共助の必要性をより身近に感じてもらいたい層である。市と連携することにより、このような若年家族層に、自助・共助の必要性を感じ、「地域住民」として様々な世代とのコミュニケーションを促進することができるほか、避難所で過ごす際も自ら積極的に運営側に関わるような啓発をしていきたい。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="456 1615 512 2009">メ リ ッ ト</td> <td data-bbox="512 1615 1453 2009">(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) 防災について不安感が増す「妊娠時」「子育て時」にどうすればよいかの指針となる冊子を妊娠時や乳幼児を育てる中で、手にすることで不安を解消し、防災への備えに着手できる。 また行政と連携することにより実現するセミナーの開催により、実用性の高い防災力を身につけることができる。 (団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) 平塚市と連携し協働することで、行政の現状や対応について知り、地域防災の見識を広げることができる。</td> </tr> </table> | 必 要 性 | 災害が起き、平塚市が被災地となってしまった場合、在宅避難または避難所のスムーズな運営が、復興スピードの鍵となる。 対象である、妊婦、乳幼児連れ、子どもは、被災時に地元に住居する可能性が最も高く、「地域住民」として避難所の実態や自助・共助の必要性をより身近に感じてもらいたい層である。市と連携することにより、このような若年家族層に、自助・共助の必要性を感じ、「地域住民」として様々な世代とのコミュニケーションを促進することができるほか、避難所で過ごす際も自ら積極的に運営側に関わるような啓発をしていきたい。 | メ リ ッ ト | (市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) 防災について不安感が増す「妊娠時」「子育て時」にどうすればよいかの指針となる冊子を妊娠時や乳幼児を育てる中で、手にすることで不安を解消し、防災への備えに着手できる。 また行政と連携することにより実現するセミナーの開催により、実用性の高い防災力を身につけることができる。 (団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) 平塚市と連携し協働することで、行政の現状や対応について知り、地域防災の見識を広げることができる。 |
| 必 要 性 | 災害が起き、平塚市が被災地となってしまった場合、在宅避難または避難所のスムーズな運営が、復興スピードの鍵となる。 対象である、妊婦、乳幼児連れ、子どもは、被災時に地元に住居する可能性が最も高く、「地域住民」として避難所の実態や自助・共助の必要性をより身近に感じてもらいたい層である。市と連携することにより、このような若年家族層に、自助・共助の必要性を感じ、「地域住民」として様々な世代とのコミュニケーションを促進することができるほか、避難所で過ごす際も自ら積極的に運営側に関わるような啓発をしていきたい。 | | | | |
| メ リ ッ ト | (市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) 防災について不安感が増す「妊娠時」「子育て時」にどうすればよいかの指針となる冊子を妊娠時や乳幼児を育てる中で、手にすることで不安を解消し、防災への備えに着手できる。 また行政と連携することにより実現するセミナーの開催により、実用性の高い防災力を身につけることができる。 (団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) 平塚市と連携し協働することで、行政の現状や対応について知り、地域防災の見識を広げることができる。 | | | | |

| | |
|--|---|
| | <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) これまで多くの自治体と連携してきたママプラグの生活者としての視点を取り入れた家族目線の防災は新しい取り組みであり、地域に一定数存在する「防災無関心層」「防災未対策層」に新たな視点を入れ、地域防災をより強固なものにすることができる。</p> |
| <p>④事業のアピールポイント この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い思いなどアピールできることを記入してください。</p> | <p>「防災ゼロをゼロに！」というテーマを掲げ、アクティブ防災事業を東日本大震災以降継続している。</p> <p>アクティブ防災は「防災は、必要だけれども気が重い」という人が多い中、少しでも取り組みやすく防災を啓発していけないかを模索して立ち上げたプロジェクトである。</p> <p>その中でも特に、女性・子どもは、災害時に生活しづらいことが多く、その具体的なニーズを把握できるのも、これまでの活動で培った各団体とのネットワークや、書籍「子連れ防災手帖」を出版する際に行った東日本大震災被災女性 812 人への取材等による経験がある、当団体ならではの事業と言える。</p> |
| <p>⑤事業概要・計画 スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月～6月 子連れ孫連れセミナー、教職員向けセミナーのテキスト作成 ・ 5月～8月 母子向け冊子作成に必要な情報の収集、整理 母子向け冊子作成 デザイン決定後、編集作業、印刷 ・ 7月～2月 子連れ孫連れセミナー、教職員向けセミナー実施 ・ 9月～ 母子向け冊子を、母子手帳を渡す際やブックスタートの際などに一緒に配布開始 ・ 9月～2月 妊産婦向けセミナー開催（計3回） <p>内訳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校教職員向けセミナー講師 1回（7月～2月） →小学校教職員対象 ・ 子連れ・孫連れセミナー3回（3回連続講座。各回のみ参加も可） （7月～2月） →乳幼児の保護者と祖父母世代対象 ・ 妊産婦向けセミナー3回（9月～2月） →妊娠中の女性対象 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3月～ 報告レポートを作成し、平塚市が市民の災害意識の向上に活用できるようにする。 |

2 企画提案団体の概要

| | | | | |
|-----------------|--|-----------------------|---------------------|--|
| ①団体名 | (フリガナ) トクテイヒエイリカツドウホウジン ママプラグ | | | |
| | 特定非営利活動法人 MAMA-PLUG | | | |
| ②所在地 | 〒 東京都渋谷区 | | | |
| ③ホームページ | http://web-mamaplug.com | | | |
| ④連絡担当者 及び連絡先 | 担 当 | 富川万美 | (役職) アクティブ防災事業代表・理事 | |
| | 電 話 | (連絡可能な時間帯) 9:00~17:00 | | |
| | F A X | | e-mail | info@npo-mplug.com |
| | 住 所 | 〒 | | |
| ⑤設立年月 | 2009年 9月 | | (法人格取得年月 2013年 2月) | |
| ⑥会員の状況 | 個人会 員 | 13人 (うち平塚市民 0人) | 団体会員 | 団体 |
| ⑦活動内容 ・活動実績 | <p>家族の「生きる力」を高めるための「アクティブ防災」を啓発中。 自治体への防災アドバイスやセミナー開催、各企業でのコンサルティング、防災冊子の制作などを中心に行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県との協働事業 (神奈川ボランティア活動推進基金21採択プログラム 2013年~2017年) 「男女共同参画型防災ネットワーク アクティブ防災事業」および「アクティブ防災ファシリテーター養成事業」として、5年間神奈川県内を中心にセミナー開講やイベント参加を実施。 「子連れ防災」の視点を活かした防災について、自治体との連携を強化した ・トヨタ財団 2012年トヨタ国内助成プログラム採択 「地域交流プログラム 異世代交流で防災に強い川崎」として川崎市で子連れ世代とシニア世代を巻き込んだ防災ピクニック事業を展開。 すくらむ21、下作延中央町内会、川崎市役所と協働して行った。 ・「妊産婦・乳幼児を中心とした災害時要援護者の福祉避難運営を含めた地域連携防災システム開発に関する研究」にて発表 ・広島県「防災先進地域における取り組み事例に係る調査結果」で事例発表 ・内閣府「国土強靱化民間の取り組み事例」 ・内閣府 HP 掲載 ・川崎市制90周年記念奨励賞受賞 ・2017 東京都の新プロジェクト「東京くらし防災」編集・検討委員 ・講座実績 神奈川県総合防災センター、平塚児童相談所、茅ヶ崎市、座間市、町田市、八王子市、北区、港区、世田谷区、東久留米市、あきる野市、高津区地域教育会議、東京消防庁、愛知県豊田市、三重県伊賀市、 | | | |

| | | | |
|---|---|-------|----------------------|
| | 岐阜県岐阜市、静岡県三島市等、全国の自治体、学校、幼稚園、保育園、企業などで実施 ・書籍 「被災ママ 812 人がつくった子連れ防災手帖」 (KADOKAWA/メディアファクトリー) 「被災ママ 812 人がつくった子連れ防災実践ノート」 (〃) 「防災ピクニックが子どもを守る！」 (〃) 「被災ママに学ぶ ちいさな防災のアイデア 40」 ※協力 (学研) ・川崎市高津区防災マニュアル制作 ・全労済協働プロジェクト「ママ防災」冊子制作 | | |
| ⑧協働事業との関わり | <input type="checkbox"/> 新たな事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模 | | |
| ⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。 | 役職等 | 氏名 | 協働事業での役割 |
| | ①会長 | 荻野潔 | 全体統括 |
| | ②アクティブ防災事業代表・理事 | 富川万美 | 全体統括、母子向け冊子制作、セミナー講師 |
| | ③アクティブ防災事業副代表・理事 | 宮丸みゆき | 母子向け冊子制作、セミナー講師 |
| | ④理事 | 小暮裕美子 | メンバー総括、経理総括、セミナー講師 |
| | ① | 森民子 | 経理実務 |
| | ⑥ | 児玉陽子 | セミナー運営、セミナー講師 |
| | ⑦ | 後藤悦子 | セミナー受付など、セミナー講師 |
| | ⑧ | 福沢かおり | セミナー受付など |
| | ⑨ | 山中梨々子 | セミナー受付など |
| | ⑩ | 橋本裕美子 | セミナー受付など |

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

| | | | |
|------|-------------|--------------|-------------|
| 総事業費 | 1,327,164 円 | 市の支出 | 1,327,164 円 |
| | | 団体の支出(他の収入等) | 0 円 |

①収入

金額単位：円

| 項目 | 予算額 | 内容 |
|-------|-------------|----|
| 市の支出 | C 1,327,164 | |
| 団体の支出 | | |
| 事業収入 | | |
| 収入合計 | A 1,327,164 | |

②支出

| 項目 | 予算額 | うち市の支出分 | 積算単価のなど具体的な内容 |
|---------------|-------------|-------------|--|
| 人件費 (会員謝金) | 609,864 | 609,864 | 母子向け冊子制作費（内容監修） 表紙・裏表紙 2P 35,000×2P=70,000 円 本編 6P 40,000×6P=240,000 円 各講座テキスト作成 4H×3日×1人×956円×3講座=34,416 アンケート用紙作成 1H×1人×956円×7回=6,692 チラシ用紙作成 4H×1人×956円×4回=15,296 セミナー講師 (資料作成・打合せ等準備を含む各講座 15-20 時間程度) 教職員向けセミナー講師 1名 30,000円×1回=30,000 子連れ孫連れセミナー講師 1名 30,000円×3回=90,000 妊産婦乳幼児セミナー講師 1名 30,000円×3回=90,000 セミナーアシスタント 3h×956円×1人×7回=20,076 円 アンケート集計 2h×956円×1人×7回=13,384 円 |
| 委託料 | 605,000 | 605,000 | 母子向け冊子制作費（デザイン・構成・制作） 一式 605,000 円（税込） |
| 諸経費 | 13,300 | 13,300 | パン缶詰 20名分 8,000 円 (子連れ孫連れセミナー2回目「防災ピクニック」で参加者が試食する分。これ以外の非常食は平塚市備蓄から使用する予定) デモ用モーリアンヒートパック 1枚 900 円 デモ用+お土産用非常用炊飯袋 200枚 2,400 円 デモ用缶詰、お茶 1,000 円 配膳用紙皿、割り箸等 1,000 円 |
| 旅費・交通費 | 14,000 | 14,000 | セミナー講師交通費 1000円×7日=7000 円 アシスタント交通費 1000円×1名×7日=7000 円 |
| 印刷費 | 85,000 | 85,000 | 冊子印刷 B5中綴じ冊子 8P×10,000部 85,000 |
| 支出合計 | B 1,327,164 | D 1,327,164 | |

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)

平塚市長 殿

| | |
|-------|---|
| 団 体 名 | 特定非営利活動法人ぜんしん |
| 代 表 者 | 柳川 涼司 |
| 事業担当課 | 社会教育部中央図書館 |
| 提 案 型 | <input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門) |
| 新規・継続 | <input checked="" type="checkbox"/> 新規 (提案 1 年分) <input type="checkbox"/> 継続 (平成 年度～) |

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

| | | |
|---|--|--|
| ①事業名 | 図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業 | |
| ②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。 | 過去 3 年間に渡り、不登校・ひきこもりに悩む親子に対し、市の青少年課と協働し、彼らへ居場所を設け、相談に応じる等しながら問題の改善と自立を促す事業を行って来た。ひきこもり状態から脱し、居場所を訪れた若者が更に自信を高め、自立する為には、居場所以外のシーンで成功体験を積み重ねることが求められる。そこで、本事業では、不登校等で悩む若者が中央図書館でのボランティア体験を通して自信を培い、社会復帰への意欲を高めることで、復学・進学・就労といった自立を促すことを目的とする。 | |
| ③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。 | 必要性 | 更なる解決策を見出せない当事者を自立へ導くには、団体の培った支援ノウハウと公共施設でのボランティア体験を活用することが望ましい。協働により当事者は、ワンストップで信頼性の高い支援を享受できる。 |
| | メリット | (市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) ・元当事者サポーターが作業等に寄り添う為、手厚い支援が得られる ・参加者の状況を考慮した作業で、段階的に自立意欲を高められる ・自信の回復に至った当事者が、就労に向け、相談を受けられる |
| | | (団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) ・事業実施に要する「ボランティア体験スペース」を確保できる ・市の施設にて関連する職員と協働することで団体の信頼度が高まる ・拡充が求められる就労支援メニューを追加することが可能になる |
| | (市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) ・図書館内の職員がこなし切れない業務等を当事者らが手助けできる ・団体のノウハウを活用した不登校等の当事者を受け入れる為のマニュアルが作れる ・市内諸機関で解決策を得られない相談者へ支援の手を差し伸べられる | |
| ④事業のアピールポイント この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校やひきこもり等を経験したサポーターと市の職員が手を組むことで、悩みを抱えている当事者が安心して本事業に参加できる ・書籍のクリーニング・修復、リサイクル図書の整理、運搬、リクエスト本の調達ほか、市の職員がこなし切れない業務負担を低減できる ・ボランティア体験における作業内容のマニュアル化を図ることで、市と団体がお互いの事業においても当該マニュアルを有効活用できる ・当事者は多様な人々と様々な作業を経験することで自立に向け、自信を培える | |

| | |
|--|---|
| <p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p> | <p>①4～5月 図書館での作業内容のヒアリングを実施（1回） 作業内容の選定、作業環境の確認等と作業マニュアル作成に向けて、市の奉仕スタッフへヒアリングを行う</p> <p>②6月～3月 ボランティア体験マニュアルの作成に向けた編集会議（6回） 市の奉仕スタッフと作業内容等を協議する編集会議を開催</p> <p>③6月～3月 マニュアル・アンケート・打合せ等の書類作成（12回）</p> <p>④6月～1月 試験的にボランティア体験をするスタッフ研修（5回） 当事者がボランティア体験をする前に団体スタッフが体験内容を十分に理解し、実践する。市と団体スタッフの役割を明確にし、信頼を構築</p> <p>⑤2月 ボランティア体験の試験実施（当事者3名 / 1回） 作成したマニュアルをもとに当事者が試験的にボランティア体験を受ける。初年度は、バックヤード作業を中心に1対1の寄り添い型支援に徹する</p> <p>⑥2～3月 ボランティア体験アンケート集計、振り返り会議の実施（2回） マニュアルのアップデート、作業の見直し、当事者の達成度確認等</p> |
| <p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p> | <p>（団体の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校・ひきこもり等を経験した「寄り添いスタッフ」の提供 ※当日の指導や立ち会いは、団体スタッフが行う ・ボランティア体験参加者へ事前・事後の「メンタル的なケア」の実施 ・「作業マニュアル」や「振り返り資料」等の作成スタッフの提供 <hr/> <p>（市の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア体験参加者へ「会場」の提供 ・ボランティア体験参加者へ「体験作業」の提供 ・ボランティア作業の事前準備、マニュアル作り等に協力いただく奉仕スタッフ |
| <p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・青少年課と協働で実施する「居場所事業」と連携して実施する ・参加者のニーズに合わせて、日頃から団体が連携している市民活動団体等へボランティア体験メニューの周知を行っていく ・参加者の状況に応じて関連する医療機関の臨床心理士等とメンタルケアを行いながら本事業を展開していく ・当事者の紹介や支援活動の周知協力には以下の機関を予定している <p>(1)神奈川県立青少年センター (2)神奈川県平塚保健福祉事務所 (3)平塚市教育委員会 (4)平塚市子ども教育相談センター (5)平塚市児童相談所 (6)平塚市内各図書館 ほか市内外の団体・機関</p> |

| | |
|---|---|
| <p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・平塚市協働事業「不登校・ひきこもり改善・自立支援の参加者人数：23名（平成28年度）、37名（平成29年度）その内5名が参加を望む ・市内の不登校児童・生徒数の状況（平成28年度） <ul style="list-style-type: none"> a)小学校 88人 b)中学校 227人 計：315人(学校教育部・教育指導課) ・市内のひきこもり者数（推計・平成29年1月/15～39歳）：約1,079人（人口：68,781人×1.57%※1）※1：内閣府調査(2016年)出現率で算出 <p>上記の中で該当する当事者がボランティア体験に参加することで、仕事や学業に対する意欲が高まり、自立につながる可能性がある</p> <p>(成果目標値：①試作版「作業マニュアル」の完成：1本 ②ボランティアスタッフ研修の実施回数：5回 ③ボランティアスタッフ研修の参加人数：15名(3名/回) ④ボランティア体験の試験実施：1回 ⑤ボランティア体験の試験実施に参加する当事者：3名)</p> |
| <p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p> | <p>子ども・若者育成支援推進法</p> |
| <p>⑩実施年度以降の展望</p> <p>今回提案の事業実施年度以降の展望を記入してください。</p> | <p>■ 実施年度以降も提案型協働事業で実施 ※市支出見込額（2年目 <u>632,180円</u>、3年目 <u>849,280円</u>）</p> <p><input type="checkbox"/> 提案型以外の方法で協働を継続 <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 終了する <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <hr/> <p>(実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項)</p> <p>○2年目：マニュアル化したボランティア体験の本格実施（実施回数を増やす）</p> <p>○3年目：ボランティア体験内容の拡張と成果・評価のレビューを作成（実施回数を増やししながら作業内容を拡張し、成果物を作成）</p> <p>初年度の事業実施後は、事業に参加した当事者らの意見を踏まえて、ボランティア体験プログラムや人員配置等の見直しを図る。</p> <p>2年目以降も当事者がボランティア体験に参加したいと思えるようにプログラムやマニュアルを更新しながら、協働事業を継続していく。</p> <p>3年目には、当事者がバックヤード作業から受付付近の業務等を体験できるようにプログラムを拡張していく。当事者が更なる自信を得ることで、自立（復学や就労等）に繋がるように支援していきたい。</p> <p>また、協働事業終了後の成果物として残る「マニュアル」や「レビュー」は、市と団体の双方の事業に活用できる有効的なツールになると考えている。</p> |

2 企画提案団体の概要

| | | | |
|---|--|---------------------|-------------------|
| ①団体名 | (フリガナ) トクテイヒエイリカツドウホウジン ゼンシン 特定非営利活動法人 ゼんしん | | |
| ②所在地 | 〒 平塚市 | | |
| ③ホームページ | http://ameblo.jp/zenshin-maekatsu ※ブログを公開中 | | |
| ④連絡担当者 及び連絡先 | 担当者 | 柳川 涼司 (役職) 理事長 | |
| | 電話 | (連絡可能な時間帯) 10時から22時 | |
| | FAX | e-mail | |
| | 住所 | 〒: | |
| ⑤設立年月 | 平成 23 年 10 月 (法人格取得年月 平成 24 年 9 月) | | |
| ⑥会員の状況 | 個人会員 | 48 人 (うち平塚市民 21 人) | 団体会員 団体 |
| ⑦活動内容 ・活動実績 | <p>1)居場所の提供：不登校・ひきこもり当事者親子が集い、意見交換等を行う。 ・平成 28 年度 延参加者：151 名 ・平成 29 年度 延参加者：152 名</p> <p>2)就労支援相談会&プチ・パソコン講座の開催：ひきこもりやニート状態にあり、就労に悩む親子へ相談会や就職後に役立つパソコン講座等を開催。 ・平成 28 年度 延参加者：162 名 ・平成 29 年度 延参加者：189 名</p> <p>3)講演会の開催：臨床心理士ほか講師を招き、実践的な支援手法を学ぶ。 ・平成 28 年 2 月 参加人数：41 名 ・平成 29 年 2 月 参加人数：30 名</p> <p>4)訪問支援：当事者親子の各家庭他へ訪問し、個別相談やパソコン講座を実施。 ・平成 28 年度 191 件 ・平成 29 年度 205 件</p> <p>5)受託講座：コミュニケーション・人間関係講座(神奈川県) H28 年 30 名、H29 年 112 名</p> | | |
| ⑧協働事業との関わり | <input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模 | | |
| ⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。 | 役職等 | 氏名 | 協働事業での役割 |
| | ① 理事長 | 柳川 涼司 | 事業全体の総括(産業カウンセラー) |
| | ② 副理事長 | 竹内 亮 | 企画考案補佐、ピアサポーター |
| | ③ 理事 | 手塚 明美 | 当事者・支援者の紹介、運営助言 |
| | ④ 理事 | 坂田 美保子 | 当事者・支援者の紹介、運営助言 |
| | ⑤ 理事 | 佐藤 五十男 | 当事者・支援者の紹介、運営助言 |
| | ⑥ | 大倉 香澄 | ピアサポーター、チラシ製作、受付 |
| | ⑦ | 伊藤 美千枝 | ピアサポーター、スタッフ管理、受付 |
| | ⑧ | 篠原 良美 | ピアサポーター、マニュアル作成 |
| | ⑨ | 澤田 圭佑 | ピアサポーター、マニュアル作成 |
| | ⑩ | 柳川 範子 | 会計管理、収支決算報告の作成 |

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

| | | | |
|------|----------|--------------|----------|
| 総事業費 | 455,280円 | 市の支出 | 450,000円 |
| | | 団体の支出(他の収入等) | 5,280円 |

①収入

金額単位：円

| 項目 | 予算額 | 内容 |
|-------|-----------|---------------------|
| 市の支出 | C 450,000 | |
| 団体の支出 | 5,280 | 団体の会計より支出 |
| 事業収入 | 0 | ボランティア体験の参加費は、徴収しない |
| 収入合計 | A 455,280 | |

②支出

| 項目 | 予算額 | うち市の支出分 | 積算単価のなど具体的な内容 |
|----------------|-----------|-----------|--|
| 謝金 | 162,000 | 162,000 | 総括責任者(産業カウンセラー/心理相談員): ①事前ヒアリング：5H×1日×1人×1,200円 ②編集会議：5H×6日×1人×1,200円 ③マニュアル等の書類作成：5H×9日×1人×1,200円 ④スタッフ研修：7.5H×5日×1人×1,200円 ⑤ボランティア体験試験：7.5H×1日×1人×1,200円 ⑥振り返り等の会議：5H×2日×1人×1,200円 |
| 謝金 (ボランティア) | 228,000 | 228,000 | 団体スタッフ(ボランティア): ①事前ヒアリング：5H×1日×3人×800円 ②編集会議：5H×6日×3人×800円 ③マニュアル等の書類作成：5H×3日×1人×800円 ④スタッフ研修：7.5H×5日×3人×800円 ⑤ボランティア体験の試験：7.5H×1日×3人×800円 ⑥振り返り等の会議：5H×2日×3人×800円 |
| 事務用品費 | 16,980 | 11,700 | ボランティア体験に活用するマニュアル資料等の印刷用インク(4色)：5,280円×1組、(黒色)1,080円×3組 スタッフが用いる文房具類(カーボールペン8本、ノート6冊、名札6組、クリアファイル等)：8,460円 |
| 旅費・交通費 | 45,300 | 45,300 | 団体スタッフ：(480+1,240+1,300円)×15日 |
| 保険料 | 3,000 | 3,000 | ボランティア体験者の傷害保険：0円(平塚市市民活動災害補償制度を利用)、団体スタッフ：1,000円×1日×3人 |
| 支出合計 | B 455,280 | D 450,000 | |

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)

平塚市長

| | |
|-------|--|
| 団体名 | 特定非営利活動法人湘南 NPO サポートセンター |
| 代表者 | 坂田美保子 |
| 事業担当課 | 協働推進課 |
| 提案型 | <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型 <input type="checkbox"/> 市民提案型 (<input type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門) |
| 新規・継続 | <input type="checkbox"/> 新規 (提案 年分) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成29年度～) |

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

| | | |
|--|---|--|
| ①事業名 | ひらつか市民活動センター協働運営事業 | |
| ②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。 | <p>【事業目的】</p> <p>平塚市における市民活動の活性化と推進を図るとともに、以下のような目的のもと、1年後の民営化を前提に平塚市と協働でセンター運営を行う。</p> <p>(1) 地域の未来に対する見通し、地域の市民活動に対する展望を持ち、長期的な視野に立って事業や活動をデザインする。</p> <p>(2) 市民活動の実態を地域社会に広く発信する。</p> <p>(3) 地域資源の発掘・開発とそのコーディネートを行う。</p> <p>(4) 協働のコーディネーターとして活動する。</p> <p>【事業の必要性】</p> <p>平成29年度から平塚市と協働運営を開始して3年目を迎える。これまで公営で培ってきた施設管理のノウハウを継承すると共に、必要とされている「多様化する市民活動に対し、当事者性、専門性、柔軟性を持ってよりニーズに即した支援の場や仕組みの提供」に応えることで市民サービスの向上につなげる。「相談機能の強化」では組織運営や団体の立ち上げ等の相談が増え、29年度は前年比20%増加し、30年度は7月現在30%増。31年度は相談機能の更なる充実に加え、地域の課題解決につながる多様な資源をコーディネートし、団体の基盤強化につなげていく。31年度はセンター移転(4月)に伴う諸業務、崇善公民館との相互利用等により新たな課題も想定されるが、利用者のニーズを捉えた支援体制を構築する。</p> | |
| ③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ | 必 要 性 | <ul style="list-style-type: none"> これまでセンターに蓄積されてきた団体情報や事務管理の仕組みは協働の手法を使うことにより無理なく引き継ぐことができる。 地域課題を解決するには、関連する公共政策分野を活用しながら地域に即した実効性ある取り組みを推進して行く必要があり、そのためには、市の情報や実務ノウハウをベースに市民の意欲や行動力を連携させて形にして行くことも重要である。市民力を高め、持続性ある地域社会づくりを市民活動センターが推進するには、団体単独ではなく市と協働で行うことが重要である。 |

| | |
|----------------------|---|
| <p>具体的に記入してください。</p> | <p>（市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体運営の広範にわたる悩みを、市民目線・専門性を活かした柔軟な対応や助言等、より具体的な専門性の高いサービスを受けられる。 ・「行政・企業・大学・NPO・地域等、様々な組織をコーディネートする」ことで、団体活動がより活性化され、センターの支援機能を利用する機会も広がる。 <hr/> <p>（団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで市民活動団体や地域活動団体へ向けたサポート事業を行ってきたが、市民活動センター運営事業が加わることで、より多くの団体から信頼を得ることが出来る。 ・平塚市との協働事業ということで広報協力はもとより、多方面からの信用と信頼が担保される。 <hr/> <p>（市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者性・専門性を活かした中間支援組織としての機能を活かすことによって、これまで課題とされてきた諸処の問題の解決が進み、市民活動の活性化が進むと考える。 ・自治会をはじめとする地域活動団体・公民館・町内福祉村等との連携、また企業・大学等の連携が強化されることで協働のまちづくりが推進される。市民活動団体や地域活動団体が活発に活動することによって平塚市全体が生き生きとしたまちになり、「選ばれるまち・住みよいまち」となることが期待できる。 |
|----------------------|---|

④事業のアピールポイント

この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い思いなどアピールできることを記入してください。

「市民活動の活性化を図り、地域課題の解決をサポートする」

- (1) 著しい社会情勢の変化、少子高齢化の中では、市民参画から市民力主導でのまちづくり、地域課題解決が急務であるため、その担い手となる人材育成と支援体制(学びと交流の場づくり、情報提供、コーディネート等)を整えて行く。また、連携力を活かしつつなぎ役(コーディネーター)としての役割と当事者目線による伴走型支援の実践に取り組む。
- (2) 当団体は、これまで平塚の市民活動・地域活動の活性化に向けた様々な事業実績と、自治会や公民館、町内福祉村などの地域活動団体とのネットワークの形成により、多くの地域課題を認識する機会を得た。また29年度より地元事業者とのネットワークも拡がり、市民活動の更なる拡がり期待できるようになった。
- (3) 市民活動センターの崇善地区への移転に伴う処々の業務が発生するが、利用団体が不便を感じないように、まずは環境整備に努める。公民館との相互利用についても利用者の声に耳を傾けながら取り組んでいく。

1. 多様なネットワークを活用し、団体のニーズに即した柔軟な相談対応

- (1) アンケートによる満足度調査を実施。相談後のサポート体制を強化しリピート率の向上と公民館等での出張相談会等の開催や、講座を受講された方々のフォローアップを丁寧に行う。
- (2) 自治会・公民館・町内福祉村及び事業者等とのネットワーク、地域の人脈を生かし専門相談コーナーの充実を図る。

2. 団体活動に必要な情報収集と分析及び発信

- (1) 地域・団体の情報収集 アンケート・取材・聞き取り調査の実施。
30年度より開始した情報収集活動を継続し、団体のサポートにつなげる。
- (2) 活動に役立つ資源(ヒト・モノ・コト)や助成金情報等を収集し、ホームページや情報紙「ひらつかの風」、SNS等を活用して発信する。FM湘南ナパサとの連携について現時点ではセンターのイベントに協力をいただいている程度であり、今後どのような形で連携がとれるか検討していきたい。
- (3) 市にかかわる統計データベース、可視化情報の提供

3. まちづくりの拠点としての「場」の運営

- (1) 組織基盤強化・市民活動活性化を目的とした講座の開催や「きっかけづくりの場」「交流の場」「学びの場」としての「まちづくりミーティング」を継続して実施する。
- (2) 市民活動団体の自立へ向けた支援や地域のソーシャルビジネスやコミュニティビジネスのプログラムの提供(※連携団体:NPO 法人都市計画家協会他)
※講座やまちづくりミーティングを使って提供する。

4. 多様な組織との連携協働の推進

- (1) 「まちづくりミーティング」を活用して、市民活動団体・地域活動団体との情報交換を行いながら連携協働を進める。
- (2) パートナーシップミーティング(仮称)の実施 NPO・企業・大学・行政等の交流の場を提供し、連携と協働を促進する。
- (3) 崇善公民館との合築を機に、地域団体と市民活動団体の交流を促進する。

⑤事業概要・計画

スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。

【概要】

平成30年4月に、センターのホームページを改定、情報紙ひらつかの風の発行、コミュ☆カフェなど新しい取り組みを進めるとともに、これまでセンターで実施されてきたユースボランティア2018、センターまつりなどを継続して実施してきた。3年目は協働事業としての最終年度でもあり、自立した運営の基盤を整える年度としたい。また「相談機能」や「コーディネート機能」については引き続き向上に努めていく。

【計画】

(1)センターのホームページの活用とSNSについて

・団体のイベント情報やボランティア募集の掲載は評判もよく喜ばれている。今年度は市民活動の広がり共有を目的に「SNS」によるコミュニティを構築する。

(2) 渉外（営業）活動の実施と強化

・市民活動や地域活動を活性化するには地域エリア内外の情報を収集し、必要と思われる人や団体を結びつけるコーディネート力が重要である。窓口に着座しているだけでは情報を掴むことは難しく、コーディネート力もなかなか向上しない。30年度から始めた渉外活動で地域の情報収集やつながりも出来つつあり、31年度も継続して実施する。

(3) スタッフの配置

・常勤スタッフ2名（7.57時間勤務週5日）
内訳：統括責任者1名、他1名
・非常勤スタッフ7名（5～7時間勤務週2日～4日）
本事業提案が採択された後に新規雇用（非常勤2名）

【人員配置】

・市が雇用する常勤1名とともにシフト制でセンターの管理運営・事業運営に携わる。

【スタッフ育成の強化】

・支援力を高める研修への参加（内部研修：情報収集・発信のための市民ライター講座、NPO基礎講座、コミュニケーション講座・外部研修：協働、コーディネーター養成講座等）、OJTによるスキルアップの向上

| | |
|------------------|--|
| 全体スケジュール | H31年4月～H32年3月 |
| 企画プランニング | 事業計画策定（H31.1月～3月） 移転・開設準備・体制づくり（H31.4月～5月） 3年間の振り返り |
| スタッフ育成 | 相談ケース会議実施（年4回程度） スタッフ会議（月1回）、外部研修適宜 新スタッフ募集及び研修（予定H31.1月～適宜） |
| プロモーション | 事業計画公開（H31.4月～5月） SNS発信 地域メディアとの連携 |
| 事業 | 窓口業務（常勤2名、非常勤7名を配置 市嘱託1名とシフト編成を組む） 専門相談（年8回※相談ネットワーク構築（H31.6月～） 講座の開催（6回程度：組織基盤強化/市民活動活性化） 参加ときっかけの「場」づくり（※H30実施のコミュ☆カフェを拡大）。 若者の地域活動参加事業。 センターまつりの実施の有無については市・団体と協議して進める 渉外（営業）活動（ネットワークづくりの強化） |
| 情報収集・発信 情報誌発行 | 情報収集・調査研究チーム 情報誌発行・WEB（SNS）発信の強化 |

| | |
|---|--|
| <p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p> | <p>(団体の役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民目線によるきめ細かい柔軟な市民活動団体支援 2. 専門性、当事者性を活かした相談対応、情報提供と発信 3. 市民活動センターの事業企画運営 4. 窓口対応 (9名が対応、公営スタッフとのシフト編成) 5. 市民活動・地域活動に必要な情報収集と発信 <hr/> <p>(市の役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民活動センターの維持管理 2. 市民活動センターの事業企画運営 3. 窓口対応 (常勤1名) 4. センター運営の円滑な引継ぎ 5. 使用許可、特定設備等利用料金の徴収 |
| <p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p> | <p>ひらつか地域づくりサポーターズ、東海大学土木工学科梶田ゼミ、NPO 法人 NPO サポートちがさき、認定 NPO 法人都市計画家協会、NPO 法人ひらつか IT サポート、東海大学、神奈川大学、平塚青年会議所、県内の市民活動支援センター、他</p> |
| <p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○専門性を付与することによって見込まれる相談件数 H30年度より20%増 (新規相談者10%増、フォローアップによる件数10%増) ○アンケートによる相談事業満足度調査実施 H31年度100%目標 ○まちづくりミーティング(仮称)等の実施 団体・個人・地域・企業等のマッチング件数→H31年:5件目標 ○センター事業をサポートするボランティアスタッフの登録数 H31年度末 目標10名 (大学のインターンシップ生含む) (内訳:情報収集・発信チーム5名、情報紙編集チーム5名) ○市民活動情報誌(センターだより)の定期的な発行 |
| <p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p> | <p>平塚市市民活動推進条例 ひらつか市民活動センターの設置及び管理等に関する条例 平塚市個人情報保護条例 労働基準法</p> |
| <p>⑩実施年度以降の展望</p> <p>今回提案の事業実施年度以降の展望を記</p> | <p><input type="checkbox"/> 実施年度以降も提案型協働事業で実施</p> <p>※市支出見込額 (2年目_____円、3年目_____円)</p> <p>■ 提案型以外の方法で協働を継続</p> <p><input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 終了する</p> <p><input type="checkbox"/> その他 (_____)</p> |

| | |
|-----------------|---|
| <p>入してください。</p> | <p>(実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度のセンター移転に伴い、協働推進課が本庁へ移り、平成 32 年度から団体のみでの運営となるが、協働運営での経験を活かして、これまで以上に協働関係を密にし、定期的な情報交換を行いながら進めていく。 ・課題（専門的な相談対応、さまざまな主体との連携・コーディネート支援）に対する成果について、相談件数の増加やその内容を見るとセンターとしての機能が少しずつ発揮できていると感じているので、引き続き丁寧に対応していく。 ・新規に採用するスタッフをはじめ、今後のセンター運営を担えるスタッフの人材育成が重要な課題である。研修と OJT の経験を共有し、更なる研鑽を積み、市民にとって必要なセンターとなるようなチーム体制をつくっていく。 <p>【事業の展望】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 市民活動団体の組織基盤強化、様々な組織との連携・コーディネートを通じ地域課題の解決力の向上に努める。 (2) 地域コミュニティとの連携・協働の促進に取り組む。 (3) 次世代につながるきっかけの場づくりを通して若年層の市民活動への参加と参画の拡大に努める。 <p>【具体的な事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報収集と提供(発信) <ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体や地域活動団体の情報公開と広報及び団体活動に役立つ情報の収集と提供を行う。①情報収集：人が媒介する仕組みの構築②情報発信力（紙媒体・HP や SNS の活用・メディア等の積極的活用） (2) 相談機能 <ul style="list-style-type: none"> 団体活動の円滑な運営・発展的な展開ができるよう相談機能の充実を図る。協働事業や助成金の申請助言、他セクターとのマッチングやコーディネートは相談を通じて行える体制づくり。 (3) 学習の機会の提供と多様なセクターとの相互交流・拠点機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体が地域課題解決に取り組むためにさまざまな学習の機会を提供する。きっかけの「場」づくりコミュ☆カフェ（仮称）の定例開催。 (4) 調査研究 <ul style="list-style-type: none"> 市民活動の推進を図るには調査・研究が欠かせず、センターには重要な役割があると考えられる。多様な人材や資源を活用して実施 (例) ひらつか元気地域づくり事例集) (5) 人材育成 <ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動に参画する新たな人材発掘/育成/若年層へのアプローチ (6) 公民館/町内福祉村/企業等との連携・協働のコーディネート |
|-----------------|---|

2 企画提案団体の概要

| | | | | |
|-----------------|--|-----------------------|------|------|
| ①団体名 | (フリガナ) トクテイエイリカツドウホウジン ショウナンエスビョーサポートセンター 特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター | | | |
| ②所在地 | 〒 平塚市 | | | |
| ③ホームページ | http:// snposc.org | | | |
| ④連絡担当者 及び連絡先 | 担当者 | 坂田 美保子 (役職) 理事長 | | |
| | 電話 | (連絡可能な時間帯) 9:00~20:00 | | |
| | FAX | e-mail | | |
| | 住所 | 〒 | | |
| ⑤設立年月 | 平成 22 年 6 月 (法人格取得年月 平成 23 年 3 月) | | | |
| ⑥会員の状況 | 個人会員 | 42 人 (うち平塚市民 41 人) | 団体会員 | 2 団体 |
| ⑦活動内容 ・活動実績 | <p>湘南 NPO サポートセンターは、「一人ひとりが自分らしく暮らせるまち」を願い、社会のために何かしたい人、市民活動・地域活動を行う人を応援することで、組織の壁・心の壁を越えて、人々がつながり共に行動する市民社会の実現をミッションとしている。(H22. 6 月任意団体として設立。H24. 3 月 NPO 法人格を取得)</p> <p>最近 5 年間の実績</p> <ol style="list-style-type: none"> 市民活動・地域活動を行う市民及び団体の相談対応及びコーディネート <ul style="list-style-type: none"> 市民活動情報交流サロン活動 (H23 年 1 月~H26 年 6 月: 約 2 年 6 か月) 来所人数 (H25 年 4 月~H26 年 3 月までの 1 年間: 318 名 (月平均 26, 5 名 開所日数述べ 96 日) 相談件数 172 件 ※参考: ひらつか市民活動センターの相談件数は、平成 26 年度: 169 件、平成 27 年度: 171 件 (年末年始を除き開設) 平成 28 年度: 176 件、29 年度: 211 件 (協働事業開始後: 前年度 20%増) 協働のまちづくり推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 交流カフェ「協働を語ろう」開催 参加者: 15 名 「市民自治と新しい公共ーまちづくりと市民のちから」講演会参加者: 89 名 対話による協働のまちづくり座談会: 参加人数: 48 名 市民活動・地域活動の情報発信 <ul style="list-style-type: none"> 情報誌 LIAISON (市民をつなぐ) の発行 NO.9 迄発行 各 1500 部 「ひらつか元気地域づくり事例集」2 号発行 H29.8 500 部 ローカルディア「ひらつか地域魅力ネット」事業 H29.7~H30.7 35 件投稿 人材育成事業 <ul style="list-style-type: none"> 「ひらつか地域づくり市民大学」平成 25 年~ (受講者実績 500 名: 公開講座含む) 平塚市協働推進課・平塚市中央公民館・平塚市福祉総務課との協働事業 市民活動団体向け講座の開催 (会計・コミュニティビジネス・マネジメント) 大学・企業・NPO とのネットワーク事業 <ul style="list-style-type: none"> 神奈川大学平塚地区 BBS 会との連携 吉沢寺子屋の運営事業 これまでの延べ人数: 小学生 1800 名、大学生 1200 名、地域 700 名 (吉沢寺子屋: 町内福祉村ひだまりの里の交流部会内事業、当会は企画・運営助言・情報発信等を行う) 東海大学土木工学科梶田ゼミとの連携 (ひらつか地域づくり市民大学、ひらつか元気地域づくり事例集発行) 「ひらつかのみんなのトイレ」調査及び HP 制作と運営 (市民活動団体との連携) | | | |

| | | | |
|--|--|-----------|-------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・NPO と企業とのコラボイベント (延べ 15 団体をコーディネート) ・ひらつか七夕まつりブース出店 (企業・NPO 等との連携による事業 延べ 30 名によるプロジェクトチームによる運営 来場者 1000 名以上) <p>5. メディア事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動・地域活動団体のサポート事業として、チラシ・リーフレット・情報紙などの作成及び HP・ブログの作成、及び作成のための相談助言等を実施 (市民活動団体・平塚市自治会連合協議会等他多数) | | |
| ⑧協働事業との関わり | <input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模 | | |
| ⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。 | 役職等 | 氏名 | 協働事業での役割 |
| | 1. 理事長 | 坂田 美保子 | 全体統括責任者 相談業務 (協働コーディネーター) |
| | 2. 副理事長 | 氏家 真美 | 情報収集・発信事業統括 (クリエイティブデザイナー) |
| | 3. 理事 | 鈴木 奏到 | 企画プロデュース・アドバイス (都市プランナー) |
| | 4. 理事 | 梶田 佳孝 | 大学との連携・推進 (東海大学工学部教授) |
| | 5. 協働アドバイザー | 二宮 雄岳 | 事業計画策定支援・経営戦略担当 (中小企業診断士) |
| | 6. 会員 | 清水 浩三 | 情報収集・発信担当 |
| | 7. 会計担当 | 大澤 千鶴 | 会計担当 |
| | 8. スタッフ | 大和田 マイ子 | 窓口業務、地域活動・市民活動とのネットワーク推進 |
| | 9. スタッフ | 長谷川 正幸 | 窓口業務及びデータ管理集積 |
| 10. スタッフ | 小西 千賀子 | 相談業務及び窓口 | |

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

| | | | |
|------|--------------|--------------|--------------|
| 総事業費 | 13,416,000 円 | 市の支出 | 13,298,000 円 |
| | | 団体の支出(他の収入等) | 118,000 円 |

①収入

金額単位：円

| 項目 | 予算額 | 内容 |
|-------|--------------|--------------------------------------|
| 市の支出 | C 13,298,000 | ひらつか市民活動センター協働運営事業負担金 |
| 団体の支出 | 28,000 | 団体会費 |
| 事業収入 | 90,000 | 講座収入 90,000 (1000×20人×3回、500×20人×3回) |
| 収入合計 | A 13,416,000 | |

②支出

| 項目 | 予算額 | うち市の支出分 | 積算単価のなど具体的な内容 |
|-------|------------|------------|---|
| 人件費 | 11,018,400 | 11,018,400 | 常勤 240,000×12 か月(1人)常勤 200,000×12 か月(人)※1日 8.57h (1h 休憩) 窓口勤務 1000×(6.4×12日+時間外5)×12 か月 981,600@2名=1,963,200 窓口勤務 1000×(5.4×12日+時間外5)×12 か月 837,600@1名=837,600 窓口勤務 1000×(6×12日+時間外5)×12 か月 924,000@1名=924,000 窓口勤務 1000×(7.6×8日+時間外5)×12 か月 789,600@1名=789,600 窓口勤務 1000×(6.5×8日+時間外5)×12 か月 684,000@1名=684,000 窓口勤務 1000×(5×8日+時間外5)×12 か月 540,000@1名=540,000 |
| 法定福利費 | 855,738 | 855,738 | 社会保険料 802,788 36699×12 か月+754×12 か月=449,436(1人) 28866×12 か月+580×12 か月=353,352(1人) 雇用保険料 28,535 (常勤1名+非常勤2名分) 労災 8,138,400×3/1000=24,415 |
| 旅費交通費 | 648,000 | 648,000 | 常勤 600×252日×2人=302,400 非常勤 400×144日×4人=230,400 非常勤 400×96日×3人=115,200 |
| 講座費 | 220,000 | 138,000 | 報償費 30000×6回=180,000 交流会費 2000×6回 チラシ印刷費 3000×6回=18,000、 交通費 10,000 |
| 専門相談費 | 40,000 | 40,000 | 専門相談員謝金 2,000×2H×8回=32,000 交通費 1000×8回=8,000 |
| 調査費 | 60,000 | 48,000 | 渉外活動(調査)費 1000×2H×2名×12回 取材交通費 500×2×12回 |
| 情報発信費 | 144,000 | 120,000 | 情報紙・Web会議費 1000×2H×6回×2名=24,000 印刷・デザイン費 20,000×6=120,000 |
| 研修費 | 50,000 | 50,000 | 5,000×4人、2000×10人、旅費 10,000 |
| 消耗品費 | 249,862 | 249,862 | 20,000 (OA用紙 8000+色用紙 8600+事務用品 3400)×12 か月 図書購入費 9,862/年(税込) |

| | | | |
|--------|--------------|--------------|-----------------------|
| HP 更新費 | 130,000 | 130,000 | 保守管理費 130,000(消費税込/年) |
| 支出合計 | B 13,416,000 | D 13,298,000 | |

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)

平塚市長

| | |
|-------|--|
| 団 体 名 | ひらつか生物多様性推進協議会 |
| 代 表 者 | 荒井 啓三 |
| 事業担当課 | 環境保全課 |
| 提 案 型 | <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型 <input type="checkbox"/> 市民提案型 (<input type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門) |
| 新規・継続 | <input checked="" type="checkbox"/> 新規 (提案1年分) <input type="checkbox"/> 継続 (平成 年度～) |

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

| | | |
|---|---|--|
| ①事業名 | 生物多様性保全推進事業 | |
| ②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。 | 平塚市には、西部丘陵、河川、海浜等多様な生物が生息する豊かな自然環境が残されているが、都市化の進展等により失われつつあり、人と自然が調和した魅力あるまちづくりの実現のためには、市民・事業者・行政等が一体となった方策の展開が必要となる。そこで、かながわ生物多様性計画及び平塚市環境基本計画に基づいた、生物多様性を保全するための施策である「平塚市生物多様性アクションプラン」策定（平成34年度に平塚市環境保全課による）にあわせ、平成31年度から33年度の3カ年で自然環境調査や市民参加型の自然環境イベントによる啓発事業を実施することで、市民へ平塚市の自然環境への愛着を育み、生物多様性の豊かさを後世へつなげていくことを目的としている。 | |
| ③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。 | 必 要 性 | 生物多様性を保全し、平塚市の豊かな自然環境を将来につなげるためには、市民、事業者、行政、それぞれの立場で取り組みを推進するとともに、各主体間での連携を深め、協働による積極的な活動の展開を促進する必要性が求められている。 |
| | メ リ ッ ト | (市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) 団体の持つ専門性により、市民が平塚の自然環境について正しく理解することができ、自ら地域のことを考え、活動することで、平塚市の自然環境への愛着を育むことができる。また、保全した自然環境が生活に潤いや安らぎを与えてくれる環境資源となり、学習や遊び等自然と触れ合える場の提供につながる。 |
| | | (団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) 平塚市生物多様性アクションプランの立案に企画段階から参画することで、各団体の相互理解や活動の活性化が図られるとともに、行政のチャンネルを通じ、各団体の活動を周知することで、その活動に共感し、参画する市民の拡大が期待できる。 |
| | (市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) 平塚市の生き物に造詣のある市民団体や企業などを中心に組織した団体との協働であるため、調査のノウハウやこれまでの活動の中で得た情報の活用をすることで、平塚市生物多様性アクションプランにおいて、市民目線での実効性のある取り組みを提案することができる。 | |

| | |
|--|---|
| <p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い思いなどアピールできることを記入してください。</p> | <p>市民・事業者・行政が一体となって生物多様性に係るアクションプランを検討することは本市にとって初の事例であり、今後の環境調査や啓発イベントに関しても市民団体や事業者のノウハウを活かす等、各過程において市民が参画している点が特徴的だといえる。また、平塚市における自然環境評価書は平成18年3月に作成されているが、これは西部丘陵のみの評価であった。しかし、今回の事業において作成する自然環境評価書は、西部丘陵に河川、海浜等を加えた範囲を調査区域とするため、平塚市においては前例がない。</p> |
| <p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p> | <p>平成31年度事業計画</p> <p>平成31年</p> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会、環境保全課①…活動準備 ・調査・分析グループ <p>植物班①…春の植物調査</p> <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会、環境保全課②…観察会企画 ・調査・分析グループ <p>昆虫班①…春の昆虫調査 魚類・甲殻類班①…春の魚類・甲殻類調査 鳥班①…春の鳥類調査 哺乳類班①…春の哺乳類調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発事業グループ <p>啓発事業班①…観察会企画</p> <p>6月</p> <p>協議会、環境保全課③…観察会準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査・分析グループ <p>両生・爬虫類班①…爬虫類調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発事業グループ <p>啓発事業班②…観察会準備</p> <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会、環境保全課④…平成32年度事業計画検討、第1回啓発イベント観察教室（フィールドツアー） ・調査・分析グループ <p>植物班②…夏の植物調査 昆虫班②…夏の昆虫調査 魚類・甲殻類班②…夏の魚類・甲殻類調査 鳥類班②…夏の鳥類調査</p> |

・啓発事業グループ

啓発事業班③…第1回啓発イベント観察教室（フィールドツアー）

8月

・協議会、環境保全課⑤…事業企画案の最終確認、事業提案の提出

9月

・協議会、環境保全課⑥…プレゼン資料検討、調査報告

・調査・分析グループ

両生・爬虫類班②…爬虫類調査

10月

・協議会、環境保全課⑦…保全活動企画、協働事業プレゼン

・調査・分析グループ

植物班③…秋の植物調査

昆虫班③…秋の昆虫調査

魚類・甲殻類班③…秋の魚類・甲殻類班

鳥類班③…秋の鳥類班

哺乳類班③…秋の哺乳類調査

・啓発事業グループ

啓発事業班④…啓発事業企画

11月

・協議会、環境保全課⑧…第2回啓発イベント保全活動、調査エリアの
現地視察

・啓発事業グループ

啓発事業班⑤…第2回啓発イベント保全活動

12月

・協議会、環境保全課⑨…年内活動報告

・調査・分析グループ

植物班④…冬の植物調査

昆虫班④…冬の昆虫調査

魚類・甲殻類班④…冬の魚類・甲殻類調査

鳥類班④…冬の鳥類調査

哺乳類班④…冬の哺乳類調査

平成32年

1月

・協議会、環境保全課⑩…報告書作成準備

| | |
|---|---|
| | <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会、環境保全課⑪…報告書中間報告 ・調査・分析グループ <p>両生・爬虫類班③…両生類調査</p> <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会、環境保全課⑫…平成31年度活動報告会、平成32年度事業計画策定 ・調査・分析グループ <p>両生・爬虫類班④…両生類調査</p> |
| <p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p> | <p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全の調査・分析（委託）及び、その結果の報告 ・生物多様性保全のための取組（アクションプラン）の提案 ・生物多様性保全のための啓発事業として、イベントや学習会等の実施 <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全の調査・分析・普及啓発イベントへの支援 ・関係機関（県等）との連絡調整や活動のPR、広報 ・環境評価の結果に基づいた生物多様性アクションプラン策定 |
| <p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p> | <p>本事業の協働団体は平塚市の里山や河川沿岸で活動し、生き物に造詣のある市民団体や企業などを中心に学識経験者を加え組織したものであるため、団体間の連携を前提にしている。なお、実際の活動では、この協議会にオブザーバーや調査員として、大学等の参画を検討している。</p> |
| <p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p> | <p>平成31年度</p> <p>平塚市の西部丘陵、河川、海浜等において、生物多様性に関する調査及び、評価・分析を実施する。</p> <p>調査の実施及び報告書の作成（調査・分析グループ）</p> <p>平塚市の生物多様性に関する調査を実施し、分析・評価、報告書としてまとめる。調査については、分類群ごとに6つの班に分かれ、それぞれリーダー、サブリーダーが中心となり、季節ごとに対象エリアを調査し、記録された生物やその環境の特徴をまとめたものを報告書とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査班について（6つの分類群） <ol style="list-style-type: none"> ①植物班 ②昆虫班 ③魚類・甲殻類班 ④両生・爬虫類班 ⑤鳥類班 ⑥哺乳類班 <ul style="list-style-type: none"> ・対象エリア <ol style="list-style-type: none"> ①里山をよみがえらせる会体験フィールド ②吉沢 ③高麗山 ④愛宕裏 |

| | |
|---|--|
| | <p>⑤総合公園</p> <p>・調査回数 4回（季節ごと）×6班（主にリーダー、サブリーダーの2人）×5エリア</p> <p>啓発事業の実施（啓発事業グループ） 2回/年 平塚市の身近な生物多様性を市民に周知するために、観察会や保全作業等のイベントを開催する。</p> <p>・観察教室（フィールドツアー） 昆虫、鳥、植物等を対象に市民の参加を募り、団体活動エリア等において、観察会を実施する。 参加目標人数：20人 協議会スタッフ：2人（講師）、4人（補助）</p> <p>・保全活動 里山の管理や外来種駆除等、保全活動の実施 参加目標人数：10人 協議会スタッフ：2人（講師）、4人（補助）</p> <p>参加目標人数：30人</p> |
| <p>◎関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p> | <p>生物多様性基本法 自然環境保全法 自然公園法 鳥獣保護法 種の保存法 かながわ生物多様性計画 平塚市環境基本計画</p> |
| <p>⑩実施年度以降の展望</p> <p>今回提案の事業実施年度以降の展望を記入してください。</p> | <p>■ 実施年度以降も提案型協働事業で実施 ※市支出見込額（2年目 3,960,000円、3年目 3,960,000円）</p> <p><input type="checkbox"/> 提案型以外の方法で協働を継続 <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 終了する <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p>（実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項）</p> <p>平成32年度</p> <p>調査の実施及び報告書の作成（調査・分析グループ） 平塚市の生物多様性に関する調査を実施し、分析・評価、報告書としてまとめる。</p> <p>①馬入水辺の楽校、②相模川・桂川流域協議会フィールド、③金目川流域協議会活動フィールド、④海浜、⑤水田</p> <p>4回（季節ごと）×6班（2人）×5エリア</p> <p>啓発事業の実施（啓発事業グループ）</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>平塚市の身近な生物多様性を市民に周知するために、観察会や保全活動等のイベントを開催する。</p> <p>4回：参加目標人数：50人</p> <p>H33年度</p> <p>平成31～32年度の調査結果の取りまとめ、自然環境評価書の作成(調査・分析グループ)</p> <p>①フォローアップ調査</p> <p>4回(季節ごと)×6班(2人)×5エリア</p> <p>啓発事業の実施(啓発事業グループ)</p> <p>イベント回数目標：4回</p> <p>参加人数目標値：70人</p> <p>(成果目標値：平成31年度～平成33年度で150人)</p> |
|--|--|

2 企画提案団体の概要

| | | | |
|---|---|------------------------------|--------------|
| ①団体名 | (フリガナ) ヒラツカセイブツタヨウセイスインキョウギカイ ひらつか生物多様性推進協議会 | | |
| ②所在地 | 〒 平塚市 | | |
| ③ホームページ | http:// | | |
| ④連絡担当者 及び連絡先 | 担当者 | 荒井 啓三 (役職) 会長 | |
| | 電話 | (連絡可能な時間帯) | |
| | FAX | e-mail | |
| | 住所 | 〒 | |
| ⑤設立年月 | 30年 5月 (法人格取得年月 年 月) | | |
| ⑥会員の状況 | 個人会員 | 1人 (うち平塚市民 人) | 団体会員 8団体 |
| ⑦活動内容 ・活動実績 | <p>本事業の協働団体は平塚市の里山や河川沿岸で活動し、生き物に造詣のある市民団体や企業などを中心に学識経験者を加え組織したものであるため、各々生物調査や成果物の発行、イベント開催等の実績がある。</p> <p>例) 馬入水辺の楽校ガイドブック NPO法人暮らし・つながる森里川海 金目川水系で出会った野鳥たち/金目川の魚類 金目川水系流域ネットワーク アオバトのふしぎ (HSK社) こまたん</p> | | |
| ⑧協働事業との関わり | <input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模 | | |
| ⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。 | 役職等 | 氏名 | 協働事業での役割 |
| | ①会長 | 里山をよみがえらせる会 荒井 啓三 | 会議等協議会の取りまとめ |
| | ②副会長 | 岸 一弘 | 学識経験者 |
| | ③会計幹事 | 学校法人 平岡学園 平岡幼稚園 堀田 佳之介 | 会計 |
| | ④監事 | 金目川水系流域ネットワーク 柳川 三郎 | 会計の監査 |
| | ⑤ | NPO法人暮らし・つながる森里川海 臼井 勝之 | |
| ⑥ | 桂川・相模川流域協議会相模川湘南地域協議会 峯谷 一好 | | |

| | | | |
|--|---|--------------------------|--|
| | ⑦ | 日本野鳥の会神奈川 支部 金子 典芳 | |
| | ⑧ | こまたん 斎藤 常實 | |
| | ⑨ | 横浜ゴム (株) 安藤 克彦 | |
| | ⑩ | | |

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

| | | | |
|------|-------------|--------------|-------------|
| 総事業費 | 3,960,000 円 | 市の支出 | 3,960,000 円 |
| | | 団体の支出(他の収入等) | 0 円 |

①収入

金額単位：円

| 項目 | 予算額 | 内容 |
|-------|-------------|--------------|
| 市の支出 | C 3,960,000 | 行政提案型協働事業負担金 |
| 団体の支出 | | |
| 事業収入 | | |
| 収入合計 | A 3,960,000 | |

②支出

| 項目 | 予算額 | うち市の支出分 | 積算単価のなど具体的な内容 |
|-------|-----------|-----------|---|
| 調査人件費 | 1,200,000 | 1,200,000 | 調査費用 4回×5エリア×6チーム×10,000円 |
| 消耗品 | 20,000 | 20,000 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察会 バインダー 100円×20枚 2,000円 ・保全作業 軍手 500円(5双入り)×4セット 2,000円 袋 500円 ・救急用具 傷薬 500円×2個 1,000円 絆創膏 500円×4個 2,000円 清浄綿 1,000円×2個 2,000円 虫刺され治療薬 1,000円×4本 4,000円 ポイズンリムーバー 1,000円×4本 4,000円 ・熱中症対策 瞬間冷却材 750円(5個入り)×2セット 1,500円 経口補水液 200円×5本 1,000円 |
| 事務費 | 30,000 | 30,000 | <ul style="list-style-type: none"> コピー用紙 500枚×5冊 3,000円 インクカートリッジ 2,000円×9本 18,000円 USBメモリ 2,000円 封筒 長3号 1パック(100枚入り) 300円 封筒 角2号 1パック(100枚入り) 700円 領収書、ふせん等 1,000円 文献コピー代等事務費 5,000円 |

| | | | |
|---------|-------------|-------------|--|
| 印刷製本費 | 80,000 | 80,000 | 成果物の製本、印刷(400×200冊) |
| 保険料 | 70,000 | 70,000 | ・調査保険 5,000円×2人×6チーム ・イベント保険料 5,000円×2回 |
| 分析・評価委託 | 2,500,000 | 2,500,000 | データの取りまとめ、分析、評価 |
| 啓発事業開催費 | 60,000 | 60,000 | 30,000円(1回あたり)×2回 ・観察会 ・保全作業 |
| 支出合計 | B 3,960,000 | D 3,960,000 | |

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。